
山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター センターだより 第45号(通巻第112号)

2006年1月25日 発行
山梨大学教育人間科学部
附属教育実践総合センター
TEL 055-220-8325, FAX 055-220-8790
E-mail: jissen@sazanka.aj3.yamanashi.ac.jp
URL: <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/>

第14回 教育フォーラムのお知らせ

今、子どもたちの感性や情緒力の乏しさ、コミュニケーション能力の低下等が憂慮されています。また、「ムカつく」子に、はらはらさせられているという親の声や、教室で突然「キレる」子への対応に悩む教師の教育相談件数が増加しているという実態もあります。そして、これらの状況と子どもたちのライフスタイルとの関係についても指摘されてきています。このような中、私たち大人は子どもたちのもつ感性を豊かにし、心豊かに育つ環境づくりを推進していくために、何をしたらよいのでしょうか。子どもたちとどのように関わっていったらよいのでしょうか。食・運動・睡眠といった子どもたちのライフスタイルとの関係に焦点をあてて共に考えてみませんか。

【主題】 感性をゆさぶる大人と子どもに関わり方

～「キレる」子どもとライフスタイル～

【日時】 平成18年 2月18日(土) 午後2:00～4:30

【会場】 山梨大学 教育人間科学部 J号館 514(多目的教室)

【プログラム】

2:00 主催者挨拶 教育人間科学部長 堀 哲夫

2:05 フォーラム

《パネリスト》

『児童生徒の心の健康と生活習慣』

山梨大学医学・工学融合学域生体環境医工学系 教授 山縣然太郎

『保健室からみた子どもたち』

東京学芸大学附属小金井中学校 養護教諭 佐見由紀子

『「キレる」児童生徒の実態と心の発達』

山梨県総合教育センター教育相談部 研修主事 太田 充

《司会》

山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター 客員教授 永井 達彦

4:30 閉会

【入場料】 無料

【対象者】 教員 学生 大学等の研究者 県内外の教育関係者 一般市民

- 【主催】 山梨大学教育人間科学部
【後援】 山梨県教育委員会 甲府市教育委員会
問い合わせ先： 山梨大学教育人間科学部 実践教育運営委員会
〒400-8510 甲府市武田4-4-37
055-220-8222（常秋美作研究室）
055-220-8325（教育実践総合センター）
- 【駐車場】 当日、駐車場が使用できます。駐車場担当者もおりますので、ご利用の方は、教育人間科学部の北門から、構内にご入場ください。

第1回「教師のための教育相談」に関する意見交換会

「教師のための教育相談」スタッフの先生方には日頃より相談事業にご協力いただき、心より感謝申し上げます。お陰様で山梨県内だけでなく、全国の教員から様々な悩みが寄せられております。「教師のための教育相談」設立時に、相談事業の成果を学部教育に還元する目的で「年1回程度、教育実践総合センター主催の事例検討会を開催することを今後検討する」ことが提案されました。そこで大変遅くなりましたが、第1回目として意見交換の場を持ちたいと考えております。お忙しいところ、誠に恐縮ですが、ご都合がございましたら何卒ご出席の程よろしくお願いいたします。なお、現在相談スタッフでない先生方のご出席も歓迎いたします。また、ご欠席の場合にもご意見等ありましたら、ご遠慮なくセンターまでお寄せください。

(jissen@sazanka.aj3.yamanashi.ac.jp)

日 時： 平成18年2月22日（水）13:00～14:00（教授会の前です。）

場 所： J号館5F多目的教室

内 容： ・教育相談事業の現状と課題について
・教育相談事業内規について 他

「国際学力調査から見える授業づくりの課題」

～第6回地域貢献教育学研究会のご報告～

1月10日（火）、県総合教育センターにおいて、第6回地域貢献教育学研究会を開催しました。第2回の中村享史教授、第3回の榊原助教授に続く、大学側からの情報及び研究の紹介ということで、学校教育講座の高橋英児助教授に、「国際学力調査から見える授業づくりの課題」と題して講演をお願いしました。今回も、メンバーの他に総合教育センターの研修主事や留学生など約30人が参加しました。講演では、2つの国際学力調査の特徴とその結果、特にPISA2003の結果から読み取れる問題を中心に課題を明らかにする中で、授業づくりのあり方について考えて



いきました。現状の「ゆとり教育」は失敗だったのか、「学力とリテラシー」「量より質」「見せかけの相関」といったキーワードでとらえられる今の日本の教育について、また、「習熟」という視点から今日の学力向上のための取り組みを問い直すこと、授業づくりを社会や生活と子どもとの関わり、子ども相互の関わり、教師と子どもの関係といった視点で考えることの大切さなど、いくつかの示唆を与えていただきました。講演会後の研究会では、フィンランドの教育事情をレポートしたビデオを視聴した後、日本の高校教育の現状と教師の質の問題、研修のあり方や授業スタイル、さらには教職員の意識の問題等が話題となり、総合学習を通してどんな力をつけるのか、また、習熟度別指導の何が問題かといった課題についても研究を深めることができました。

これまでのセンターだよりの一部は <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/pub/nl/>で見ることができます。